

ハブセンター新設を推進

配送サービス核に展開

ヒタチ

ダイセীগруппのヒタチ（伊藤信政社長、東京都千代田区）はハブセンター（HC）の新設を押し進めている。2019年12月期は、8月に三重（三重県菟野町）、9月に松本HC（長野県塩尻市）、10月に浜松HC（浜松市内）、11月にりんくうHC（大阪府泉佐野市）を開設する予定で、

4月の入間HC（埼玉県入間市）を含め五つのセンターを相次ぎ開設。これに伴い、ヒタチグループの拠点数は18都道府県の33HCに拡大する。

HCの大半は配送業務に特化。今期オープンしたHCでは唯一、松本HCが通過型センターの機能を備える。また、浜松HCは働き方改革に並び、東京―大阪の中継輸送基地として活用する構想。ビジョンの「全

国の47都道府県に5千の配送コースを構築」に向け、今後も配送サービスを核とするHCを順次開設していく方針だ。

併せて、最大手の製パン会社が売上高比率で8割を超える現状からの脱却を喫緊の課題に設定。新たなHCの設置と並行して、食品メーカーの物流子会社や他の物流会社の業務も積極的に担っていく。19年12月期の売上高は前期比5%増の



内部体制の充実・強化も重要テーマに据える

く上で前提となる内部体制の充実・強化も重要テーマに据える。初任ドライバー講習、リーダー研修、統括リーダー（所長クラス）会議を通じて全体の底上げを図り、安全と品質のより一層の高度化を促進。その次は社員の定着率向上及び新たな人材を呼び込むため、評価制度と人事制度の刷新に向けた準備に取り掛かる予定だ。

51億円を超える見込み。更に、業容を拡大してい

（沢田顕嗣）